

靈界の存在

抑々、人間は何が為に此世に生れて来たものであるうか。此事を先ず認識せねばならない。それは神は地上経綸の目的たる理想世界を建設せんが為人間を造り、それぞれの使命を与へ、神の意図のままに活動させ給うのである。原始時代から今日の如き絢爛たる文化時代に進展せしめたのも、現代の如き人間智能の発達もそれが為に外ならない。そうして人間なる高等生物は素より、他の凡ゆる生物否植物、鉱物、其他形体を有する限りの凡ゆる物質は靈と体の二要素によって形成されたものであつて、如何なる物と雖も靈が分離すれば亡滅するのであるが、茲では人間のみに就いて説明してみよう。抑々人間の肉体は老衰病氣、大出血等に依つて使用に堪え得なくなつた場合、靈は肉体を捨てて離脱し、靈界に赴き

靈界人となり靈界生活が始まるのである。之は世界如何なる人種も同様で、其例として第一次欧州大戰後英國に於いて當時の紙価を高からしめたオリヴァー・ロッチ卿の名著「死後の生存」であるが、其内容は著者ロッチ卿の息子が歐洲戰爭に出征し、ベルギーに於いて戦死し、その靈が父ロッチ卿に對し種々の手段を以て靈界通信を夥しく贈った、その記録であつて、當時各人は争つて読み、それが動機となつて

靈界研究は俄然として勃興し、研究熱が盛んになると共に、優秀なる靈媒も続出したのである。又彼の有名なるベルギーの文豪青い鳥の著者故メーテルリンク氏も心靈の實在を知つて、彼の有名なる運命觀は一変し、心靈学徒として熱心な研究に入つたという事は、其方面に誰知らぬ者もない事實である。而も其後フランスのワード博士の名著靈界探検期が

出版され、心靈研究は弥々盛んになったという事である。ワ
ード博士に到つては靈界探究が頗る徹底的で、同博士は一週
に一回一時間位、椅子に座した儘無我の境地に入り、靈界へ
赴くのである。其際博士の伯父の靈が博士の靈を引連れ靈界
の凡ゆる方面に対し、具さに靈界の実相を指示教導されて出
来た記録であるが、其際友人知己の靈も種々の指導的役割を
なし、博士の靈界知識を豊富にしたという事である。之は
なかなか興味もあり、靈界生活を知る上に於いて大いに参
考になるから、読者は一度読まれん事を望むのである。勿論
西洋の靈界は日本とは余程相違のある点はやむを得ないが、
私は最後に於いて、日本及び泰西に於ける靈界事象を種々の
実例を以て解説するつもりである。

十数年前、英国よりの通信によれば同国に於いては数百の心靈研究会が生れて盛んに活動しつつある事や、心靈大学まで創設されたという事を聞及んでいたが、その後大戦の如何様になったか、今日の実状を知りたいと思っている。

扨て靈界の種々相に就いて漸次説いてみよう。

(自叢3)